

2 調査票の構造

2-1 調査票の作成過程と基本デザイン

NFRJ03 は、基本的には NFRJ98 の継続調査として位置づけられているため、調査票の作成は NFRJ98 の調査票の検討から始められた。この作業グループとして有志からなる「NFRJ98 検討研究会」（世話人：稲葉昭英・西野理子・加藤彰彦）が組織され、2002 年 2 月から 8 月まで、毎月 1 回、計 7 回の研究会を行い、検討を行った。原則として測定論上問題がないものは NFRJ03 でも継続的に使用することとし、問題が見られたものについては修正・削除を行った。新規に加わる項目は、こうして修正・変更の結果として出現したものと、少子化・児童虐待など、調査票の複数化（後述）に対応して可能になった項目である。

NFRJ98 の検討にあたって導き出された結論は以下のようなものであった。

- (1) NFRJ98 は、回答者と一定の親族関係上の位置にある個人を特定し、その個人との関係を共通の項目によって測定するという基本デザインをとっている。しかしながら、その方法がすべての項目に徹底されていたわけではなく、いくつかの項目については個人が特定できない形式になっている（きょうだい、親など、複数の個人が所属する親族カテゴリー集合での回答選択肢など）。極力、個人を特定化できるような形式を徹底する⁽¹⁾。
- (2) NFRJ98 は 28 歳から 77 歳までという広い年齢層を対象にするため、共通項目は年齢をこえて適用可能な項目に限定されていた。このため、「通ライフステージ項目」が大部分を占め、育児期に限定されるような「特殊ステージ項目」が含まれていない。特殊ステージ項目を含めるには、スキップ形式を含めるか調査票の複数化が考えられるが、留置調査では複雑なスキップ形式は避けるべきであり、調査票の複数化を考える。
- (3) NFRJ98 は、個人（エゴ）と親族関係上の他者との関係を網羅しながら個人にとって家族として意識される範囲を明らかにするという潜在的な意図が存在した。このため、世帯員について詳細な情報を収集することを禁欲した結果、世帯構成を復元できないなどの問題が発生することになった。これに対しては世帯表形式で同居している世帯員に関する情報の収集を図る。
- (4) NFRJ98 は第 1 回目の調査であったため、過去のイベント経験年齢などライフコースの軌跡を遡及的に測定する項目が配置されたが、今回は 2 回目の調査であるために原則として現状を測定するものとし、過去の経験については禁欲する。
- (5) 全体の項目分量が多いために、いくつかの項目については今回の使用を断念する。ただし、第 3 回調査（NFRJ08）においてこれらの項目が復活する可能性はある。

NFRJ98 と比較した際の大きな変更点は上記 5 点に集約されるといってよい。

- (1) については、NFRJ98 で置かれていた個人的ネットワークに関する項目を、特定の親

族的地位保有者との関係を共通項目で問うマトリックス形式の中に極力吸収した。

(2)については、「若年票」(28-47歳、1956-75年生まれ)と「中高年票」(48-77歳、1926-55年生まれ)の2種類に調査票をわけ、前者に育児や少子化関連項目を収録した。これに伴い、親子関係の項目を前期親子関係と後期親子関係に区分することが可能になり、それぞれ独自の項目を設定することが可能になった。

(3)については、世帯表を「若年票」「中高年票」共通項目として設定し、現在「一緒に住んでいる方」と「一時的に別居している方」それぞれについて、続柄・性別・出生年を問う形式で測定を行った。なお、世帯票はあくまで「世帯」をともにする人々、一時的に「世帯外にいる」人々を測定するものであり、家族の範囲を測定するものではない(質問項目中にも家族という用語は使用していない)ことには注意をしておく必要があるだろう。

(4)は、過去のイベント経験を問う項目を基本的には配置しないという処置をとった。

(5)については、家族と認識する範囲(いわゆる家族認知)をはじめとして多くの項目を今回は見送るという措置をとった。にもかかわらず、最終的にはページ数を大幅に減らすことはできなかった。これは、世帯表や育児関連項目など、新規項目が盛り込まれたためである。

2-2 若年票・中高年票の共通項目と独自項目

若年票は19頁、中高年票は18頁と、若年票のほうが1頁分多くなっている。

以下の表は西野理子氏によって作成された(西野・稲葉、2004)項目対応表である。質問番号で項目を対照させているが、*印をつけた部分は比較対照するには一定の留保や加工がとくに必要なことをあらわしている。まず、若年票のみに存在する項目は、問9付問0(結婚希望)、問9付問16(カ)(キ)(育児項目)、親子関係を問う問16付問1(エ)(一緒に遊ぶ)、(オ)(知識や技能を教える)、(カ)(一緒に夕食頻度)、問16付問2(9項目、虐待・しつけ項目)、問22(オ)(個人的ネットワーク：子どもの世話)、(カ)(個人的ネットワーク：子どもについての悩み)、問23(12項目、子育てについての態度)、問24(子どもをあと1人ほしいか)、問24付問(希望子ども数)の32項目である。

一方、中高年票にのみ存在する項目は親子関係を問う問16(ウ)(同別居状態)、(オ)(就業状況)、(カ)(婚姻上の地位)、(キ)(会話頻度)、(ク)(金銭的援助の受領)、(ケ)(金銭以外の援助の受領)、(コ)(金銭的援助の提供)、(サ)(非金銭的援助の提供)である。

このように、若年票と中高年票のうち、親子関係についての項目に特殊ステージ的要素が加わっているほか、少子化関連項目が若年票に追加されている。中高年票は親子関係の一部項目をのぞけば、若年票と共通する項目で構成されており、若年票とあわせた分析が可能になっている。若年票は、育児や希望子ども数などの独自項目がもられているが、きょうだい関係、ネットワーク、個人情報などは中高年票と共通している。

調査票の複数化といっても、圧倒的に多くは共通項目によって構成されている。

表 2-1 NFRJ03・NFRJ98 調査項目対応表

			03若年	03中高年	NFRJ98	異同点
基本属性	性別		1	1	1	
	出生年月		2	2	2	
	現在年齢		2	2	2	
	生育地				3	
	住居		3	3	14	
	最終学歴		4(1)	4(1)	4(1)	カテゴリ追加
	卒業		4(2)	4(2)		
	卒業時期				4(2)	

世帯	同居人数		5	5	11	世帯表の導入
	同居相手	続柄	5-1b	5-1b	12	カテゴリ変更
		性別	5-1c	5-1c		
		出生年	5-1d	5-1d		
	一時的別居者	有無	5-2	5-2		
		続柄	5-2b	5-2b		
		性別	5-2c	5-2c		
		出生年	5-2d	5-2d		
	世帯主	続柄	5-3	5-3	13	カテゴリ変更
		性別	5-3	5-3		
		出生年	5-3	5-3		

職業	就業経験	有無	6	6	8	
	現職	有無	6	6	8	
	現職・主たる職	従業地位	6-1	6-1	8-1	
		職種	6-2	6-2	8-2	
		規模	6-3	6-3	8-3	
	親なりによる経歴変化		6-4	6-4	19	質問文・カテゴリ変更
		時期			19-1	
	結婚による経歴変化				18	
	現職	労働日数	6-5	6-5	8-4	
		労働時間	6-6	6-6	8-5	
		通勤時間	6-7	6-7	8-6	
	初職	時期			9(1)	
		従業地位			9(2)	
		職種			9(3)	
		規模			9(4)	

経済	年収	個人	7	7	10	カテゴリ変更
	年収	世帯	8	8	15	カテゴリ変更
	ゆとり度		13	13		

結婚	現在の配偶者	有無	9	9	16		
	結婚経歴		9	9	16	カテゴリ変更	
	結婚希望		9-0				
	現在の配偶者	同居		9-1	9-1		
		結婚時期		9-2	9-2	16-1	
		生年月		9-3	9-3	16-3	
		年齢		9-3	9-3	16-3	
		結婚歴		9-4	9-4		
		最終学歴		9-5	9-5	16-4	カテゴリ追加
		就業経験		9-6	9-6	16-5	
		現職の有無		9-6	9-6	16-5	
		現職・主職地位		9-7	9-7	16-6	
		現職・主職職種		9-8	9-8	16-7	
		現職・主職規模		9-9	9-9	16-8	
		現職労働日数		9-10	9-10	16-9	
		現職労働時間		9-11	9-11	16-10	
		現職通勤時間		9-12	9-12	16-11	
		年収		9-13	9-13	16-12	カテゴリ変更
		健康状態		9-14	9-14	16-13	
		苗字				16-2	
	家族認知				16-19		
	同伴行動	夕食			16-14(ア)		
		買い物			16-14(イ)		
	夫婦関係	悩み事	9-15(ア)	9-15(ア)	16-16(ア)		
		評価	9-15(イ)	9-15(イ)	16-16(イ)		
		助言	9-15(ウ)	9-15(ウ)	16-16(ウ)		
		意見の食い違い			16-17		
	家事分担	食事の用意	9-16(ア)	9-16(ア)	16-15(ア)		
		食後あと片付け	9-16(イ)	9-16(イ)			
		買い物	9-16(ウ)	9-16(ウ)			
		洗濯	9-16(エ)	9-16(エ)	16-15(イ)		
		風呂掃除			16-15(ウ)		
		掃除	9-16(オ)	9-16(オ)			
子どもと遊ぶ		9-16(カ)					

	子の世話	9-16(キ)			
	孫・子の世話			16-15(エ)	
	看病・介護			16-15(オ)	
満足度	育児	9-17(ア)	9-17(ア)	16-18(イ)	質問文変更
	親への態度	9-17(イ)	9-17(イ)		
	家事	9-17(ウ)	9-17(ウ)	16-18(ア)	質問文変更
	家計運営	9-17(エ)	9-17(エ)	16-18(ウ)	
	性生活	9-17(オ)	9-17(オ)	16-18(エ)	
	夫婦関係	9-17(カ)	9-17(カ)		
	結婚生活			16-18(オ)	
トラブル		9-18	9-18	* 29(ア)	カテゴリ変更
結婚経歴		9-19	9-19	* 17	加工必要
初婚	時期			17-1	
死別	時期			17-2	

家族意識	性別分業	10(ア)	10(ア)	20(ア)	
	夫婦関係	10(イ)	10(イ)	20(イ)	
	性的関係	10(ウ)	10(ウ)	20(ウ)	
	親子の同居	10(エ)	10(エ)	20(カ)	
	母親育児	10(オ)	10(オ)		
	性別役割	10(カ)	10(カ)		
	親子扶養	10(キ)	10(キ)		
	親子責任	10(ク)	10(ク)		
	親子介護	10(ケ)	10(ケ)		
	自己犠牲			20(エ)	
	長男義務			20(オ)	

CESD 尺度		11	11	23	16→12 項目に削減
悩み・負担感	子どものこと	12(ア)	12(ア)	21(ア)	
	配偶者のこと	12(イ)	12(イ)	21(イ)	
	親のこと	12(ウ)	12(ウ)	21(ウ)	
	家族からの理解	12(エ)	12(エ)	21(エ)	
	家事等負担	12(オ)	12(オ)	21(オ)	質問文変更
	家計不安	12(カ)	12(カ)		
	仕事負担	12(キ)	12(キ)	21(カ)	
	職場での理解	12(ク)	12(ク)	21(キ)	
	仕事と家族	12(ケ)	12(ケ)		
	家族と仕事	12(コ)	12(コ)		

生活満足度		15	15		
健康状態		14	14	22	

子ども	人数(健在子)		16	16	24-4		
	ほしいか		24				
	ほしい人数		24-1				
	1人目 (健在子)	性別		16-1(ア)	16(ア)	* 24-1(1)	加工必要
		出生年月		16-1(イ)	16(イ)	* 24-1(2)	加工必要
		居住距離			16(ウ)	24-5(ア)	カテゴリ変更
		苗字				24-5(イ)	
		最終学歴		16-1(ウ)	16(エ)	24-5(エ)	カテゴリ追加
		就業地位			16(オ)	24-5(オ)	
		婚姻地位			16(カ)	24-5(カ)	
		遊ぶ頻度		16-1(エ)			
		教える頻度		16-1(オ)			
		夕食頻度		16-1(カ)			
		会話頻度			16(キ)	24-5(ウ)	カテゴリ変更
		金銭援助・受			16(ク)	* 28(1)(ア)	分析限定、加工必要
		非金銭援助・受			16(ケ)	* 28(2)(ア)	分析限定、質問文変更、加工必要
		金銭援助・与			16(コ)	* 28(1)(ア)	分析限定、加工必要
		非金銭援助・与			16(サ)	* 28(2)(ア)	分析限定、質問文変更、加工必要
		トラブル		16-1(キ)	16(シ)	* 29(イ)	分析限定、加工必要
	良好度		16-1(ク)	16(ス)	24-5(キ)		
	家族認知				24-5(ク)		
	2人目						
	3人目						
	しつけ			16-2			
	子どもを持つことの意味			23			
	人数(死亡も含む)					24	
	1人目 (死亡も含む)					24-1	
	2人目 (死亡も含む)					24-1	
	3人目 (死亡も含む)					24-1	
	4人目 (死亡も含む)					24-1	
	5人目 (死亡も含む)					24-1	
	子の結婚経験	有無				24-2	
	最初の子				24-3		
	時期				24-3		
同伴行動					24-6		

父親	健在/死亡	17	17	25(イ)	
	実親かどうか	17-1(ア)	17-1(ア)	25 付(ア)	
	出生年月	17-1(イ)	17-1(イ)	* 25(ア)	健在のみへ
	就業有無	17-1(ウ)	17-1(ウ)	25 付(イ)	
	居住距離	17-1(エ)	17-1(エ)	25 付(ウ)	カテゴリ変更
	会話頻度	17-1(オ)	17-1(オ)	25 付(エ)	
	最終学歴	17-1(カ)	17-1(カ)	5	カテゴリ追加、カテゴリ不一致
	金銭援助・受	17-1(キ)	17-1(キ)	* 28(1)(イ)	分析限定、加工必要
	非金銭援助・受	17-1(ク)	17-1(ク)	* 28(2)(イ)	分析限定、質問文変更、加工必要
	金銭援助・与	17-1(ケ)	17-1(ケ)	* 28(1)(イ)	分析限定、加工必要
	非金銭援助・与	17-1(コ)	17-1(コ)	* 28(2)(イ)	分析限定、質問文変更、加工必要
	トラブル	17-1(サ)	17-1(サ)	* 29(ウ)	分析限定、加工必要
	良好度	17-1(シ)	17-1(シ)	25 付(オ)	
	代表職			6	
	死亡時期			25(イ)	
家族認知			25 付(カ)		
母親					
父母	夫婦関係の確認	17-2	17-2		

きょうだい	有無		18	18	26	質問文変更	
	兄	健在人数	18-1	18-1			
		死亡人数	18-1	18-1			
	姉	健在人数	18-1	18-1			
		死亡人数	18-1	18-1			
	弟	健在人数	18-1	18-1			
		死亡人数	18-1	18-1			
	妹	健在人数	18-1	18-1			
		死亡人数	18-1	18-1			
	健在きょうだい人数			18-1	18-1	26-1	加工必要
	1番上	性別		18-2(ア)	18-2(ア)	26-2(ア)	
		出生年月		18-2(イ)	18-2(イ)	26-2(イ)	
		居住距離		18-2(ウ)	18-2(ウ)	26-2(エ)	カテゴリ変更
		最終学歴		18-2(エ)	18-2(エ)		
		会話頻度		18-2(オ)	18-2(オ)	26-2(オ)	
		婚姻地位		18-2(カ)	18-2(カ)	26-2(カ)	
		金銭援助・受		18-2(キ)	18-2(キ)	* 28(1)(ウ)	分析限定、加工必要
		非金銭援助・受		18-2(ク)	18-2(ク)	* 28(2)(ウ)	分析限定、質問文変更、加工必要
		金銭援助・与		18-2(ケ)	18-2(ケ)	* 28(1)(ウ)	分析限定、加工必要

		非金銭援助・与	18-2(コ)	18-2(コ)	* 28(2)(ウ)	分析限定、質問文変更、加工必要
		トラブル	18-2(サ)	18-2(サ)	* 29(エ)	分析限定、加工必要
		良好度	18-2(シ)	18-2(シ)		
		苗字			26-2(ウ)	
		家族認知			26-2(キ)	
	2番目					
	3番目					

義父	健在/死亡		19	19	27(イ)	
	出生年月		19-1(ア)	19-1(ア)	* 27(ア)	健在のみへ
	就業有無		19-1(イ)	19-1(イ)	27 付(ア)	
	居住距離		19-1(ウ)	19-1(ウ)	27 付(イ)	カテゴリ変更
	会話頻度		19-1(エ)	19-1(エ)	27 付(ウ)	
	最終学歴		19-1(オ)	19-1(オ)		
	金銭援助・受		19-1(カ)	19-1(カ)	* 28(1)(エ)	分析限定、加工必要
	非金銭援助・受		19-1(キ)	19-1(キ)	* 28(2)(エ)	分析限定、質問文変更、加工必要
	金銭援助・与		19-1(ク)	19-1(ク)	* 28(1)(エ)	分析限定、加工必要
	非金銭援助・与		19-1(ケ)	19-1(ケ)	* 28(2)(エ)	分析限定、質問文変更、加工必要
	トラブル		19-1(コ)	19-1(コ)	* 29(オ)	分析限定、加工必要
	良好度		19-1(サ)	19-1(サ)	27 付(エ)	
	家族認知				27 付(オ)	
	死亡時期				27(イ)	
義母						
義父母	夫婦関係の確認		19-2	19-2		

要介護	続柄		20	20		
	続柄(主たる介護)		21	21		
	死亡親族の介護歴				32~37	
	配偶者の要介護		20	20	36	

援助 ネットワーク	精神的		22(ア)	22(ア)	30(ア)	カテゴリ変更
	金銭的		22(イ)	22(イ)	30(イ)	カテゴリ変更
	人手		22(ウ)	22(ウ)	30(ウ)	質問文変更、カテゴリ変更
	介護		22(エ)	22(エ)	30(エ)	カテゴリ変更
	子の世話		22(オ)			
	子の悩み		22(カ)			

離家経験					7	
その他親族	人数				31(1)	
	家族認知				31(2)	
	孫の年齢				31(3)	

2-3 NFRJ03 と NFRJ98 との異同

既述のように、NFRJ98 と NFRJ03 の 2 つの調査の大きな違いは、NFRJ98 に見られたイベント経験に関する遡及的項目が大幅に割愛されたこと、NFRJ03 には少子化や子育て関連項目、世帯表が新規に収録されたことである。

NFRJ98 の項目で NFRJ03 に収録されていない項目は以下のとおりである（表 2-1 参照）。苗字の異同（問 16 付問 2、問 24 付問 5（イ）、問 26 付問 2（ウ））、家族認知項目（問 16 付問 19、問 24 付問 5（ク）、問 25 付問（カ）、問 26 付問 2（キ）、問 27 付問（オ））、問 3 本人生育地、問 4 付問 2 卒業年、問 9 初職関連情報、問 16 付問 14（ア）（イ）夫婦の同伴行動、問 16 付問 15（ウ）風呂掃除、（エ）孫・子の世話、（オ）看病・介護、問 16 付問 17 夫婦間コンフリクト、問 16 付問 18 結婚満足度、問 17 付問 1 初婚情報、問 17 付問 2 死別情報、問 18 結婚経歴、問 19(2) 親なり時期、問 20（エ）（オ）（家族意識項目）、問 24 付問 1（死亡を含む子どもに関する人数等の情報）、問 24 付問 2～4・6（子どもの婚姻上の地位などの情報）、問 6（父親の代表職）、問 25（イ）（両親の死亡情報）、問 27（イ）（義父母の死亡情報）、問 7（離家経験）、問 31（その他の親族に関する情報）。

註

(1) この主張は、保田(2002)によって明確化されたものである。

文献

西野理子・稲葉昭英, 2004「調査の目的と調査票の構造」第 14 回日本家族社会学会大会報告、テーマセッション『第 2 回全国家族調査 (NFRJ03) についての中間報告』

保田時男, 2002「NFR98 の測定ロジックとその問題性」第 12 回日本家族社会学会大会報告、テーマセッション『NFR98 からの提言』。